



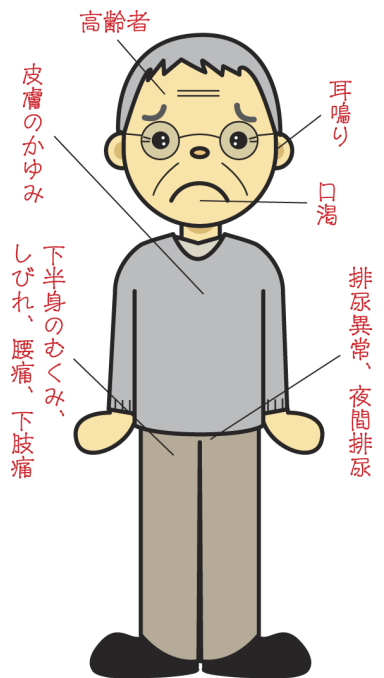
## 牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)

【処方コンセプト】腰から下が冷えて重だるく、夜間排尿があるか、足がむくむ方。

八味地黄丸に牛膝と車前子を加え、下肢の浮腫やしびれを除く処方。夜間排尿、尿は無色透明、下半身のだるさ、つまずきやすいなどが特徴である。

◆原典の『済生方』には「腎虚して腰重く、足腫し、小便利せざるを治す」とあり、腎陽虚と水湿が合わさった状態に用いることがわかる。同じ腎陽虚の八味地黄丸の利水作用をさらに強力にしたスーパー八味地黄丸と位置づけられる。

◆腎陽虚では、腰から下が冷えて重だるく、腰痛、下腹部が引きつる、浮腫、尿量減少あるいは多尿、夜間排尿などの症状がみられる。牛車腎気丸は腎陽虚の症状に、さらに下半身の浮腫、乏尿（極度の尿量減少）などの水湿の症状がみられるのが特徴。



◆臨床では、下半身の症状（排尿異常・むくみ・痛み）、老化症状などを目標に、糖尿病性神経障害、前立腺肥大症、多発性神経炎、骨粗鬆症、腎炎（扁桃炎後や産後に出やすい）、老人性白内障、シェーグレン症候群、ED（勃起障害）などに応用されている。

◆牛車腎気丸の適応で、胃腸虚弱な者には、香砂六君子湯や参苓白朮散などを一緒に用いるとよい。

**【処方構成】10味**

八味地黄丸は、地黄（ジオウ）、山茱萸（サンシュユ）、山薬（サンヤク）の補腎益精薬で腎精不足を補い、牡丹皮（ボタンピ）、沢瀉（タクシャ）で腎の虚熱をさまし、沢瀉、茯苓（ブクリョウ）で補腎益精薬の潤し過ぎを抑えて、全体として腎精不足を補う。さらに、温陽散寒の附子（ブシ）、桂皮（ケイヒ）が血行を促進して全身を温め、特に腰から下が冷えて重だるい、腰痛など腎陽虚の症状を除く作用がある。以上のように、八味地黄丸は腎精不足と腎陽虚の両面を補い、主として腎陽虚を補う。牛車腎気丸はさらに、補腎利水の牛膝（ゴシツ）・車前子（シャゼンシ）が加わり下半身の浮腫、乏尿、排尿困難を改善する。



	解表	清熱	利水	補気	補血	活血	温補	配合生薬数					
	桂皮	菊花	牡丹皮	茯苓	沢瀉	車前子	山茱萸	山薬	地黄	枸杞子	牛膝	附子	
牛車腎気丸	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
八味地黄丸	○		○	○	○			○	○	○		○	8
杞菊地黄丸		○	○	○	○			○	○	○			8
六味丸			○	○	○			○	○	○			6

処方名	類方鑑別
牛車腎気丸	八味地黄丸にむくみ、しびれをとる牛膝・車前子を加えている。
八味地黄丸	腎陽虚のファーストチョイス。腰から下が冷えると重だるく、夜間排尿がある。
杞菊地黄丸	六味丸に目の疲れ、かすみや充血をとる枸杞子・菊花を加えている。
六味丸	腎陰虚のファーストチョイス。小児の発達障害と老化の予防に。